

銀漢亭日録



伊藤伊那男

「銀漢」のエッセイ等書く。夜、戴いた鮪で寿司を握る。風邪気味にて薬。ホカロンなど。

15日(火) ▼風邪気味。悪寒もあり、十九時半、客が途切れたところで閉めて帰宅。夜中、咳止まらず眠れない。朝方、咳は収まる。

16日(水) ▼今日は「あ・ん・ど・うクリニック」休診にて、小川小児科へ。インフルエンザではないようだ。店、「三水会」六人。週刊金曜日の伊達さんと写真家の初沢重利さん。二十二時閉める。

ヘトヘト。この私が食欲無し。この私が二日間酒抜き。17日(木) ▼「あ・ん・ど・うクリニック」。店、予約あり、休むわけにはいかない。元「俳句研究」の中西編集長、ひよっこ来店。遠藤若狭男さんの急死にショック受けたと。会う約束をしていた矢先と。

18日(金) ▼発行所「蕁句会」の選句あと七人店。杉阪さん風邪で欠席。島谷高水さんより連絡あり「纏句会」のメンバー半数が風邪で倒れており、明日の句会は休会と。客が途切れたところで閉める。二十時。

19日(土) ▼風邪かなり回復中。でも食事するとすぐ眠くなり調子出ず。角川「俳句」の原稿締め切り近し、エンジンかけないと。寝たり、起きたり一日家。

20日(日) ▼朝、何とか角川の原稿をまとめる。十四時、浅草「三浦屋」で皆川丈人、文弘さん、井蛙さんと私。武田編集長は風邪で休み。河豚料理。酒四日ぶり。あと「浅草サンボア」「神谷バー」など三軒飲み歩く。「浅草サンボア」のハイボール佳し。

21日(月) ▼店「演劇人句会」八人。角川の新年会あとの水内慶太、麻里伊、鈴木忍、木暮陶句郎、阪西敦子、山田真砂年、菊田一平、竹内宗一郎さん……。

22日(火) ▼十五時半、ひまわり館。「萩句会」の選句。中村孝哲さん句集の相談。店、「ひまわり句会」あと九人。二十二時閉める。

23日(水) ▼伊集院静先生から妻の忌日供養のお線香到来。昼寝。店、閑散。一階も二階も事業部、演芸部(私設)の新年大会用余興の練習。私も銭形平次の歌を……。数日、酒抜いている。

25日(金) ▼発行所「門」同人会に貸し出し。あと鳥居真里子さん他五人店。奥、「雛句会」十一人。津田卓さん検査入院にて中村宗男さんが取り仕切る。あと「金星句会」あとの五人。

26日(土) ▼十三時、スクワール麹町にて「銀漢新年俳句大会・年次総会」十五時半より祝宴。今年は銭形平次役で、その化粧の最中に俳人協会の能村研三理事長より句集「然々と」が俳人協会賞受賞との電話入る。そのあと、堀切克洋君にも俳人協会新人賞受賞の電話入り、ダブル受賞となる。宴会盛り上がり百人ほどの参加者から祝福を受ける。あと銀漢亭に三十人位集まり二次会。嬉しい一日となる。

27日(日) ▼やや二日酔い。十四時、一週間遅れの亡妻光代十四回忌、偲ぶ会。但し午前中に孫の龍正君のインフルエンザが発症にて杏一家来ないことに。兄夫妻はともと所用で欠席にて妻の妹の五日市夫妻のみ。愛媛から取り寄せのいつもの河豚料理。私の作ったカラスミ、鮪の芹和え、生牡蠣などで思ひ出話。二十年前私の俳人協会新人賞受賞の時、花束贈呈をして貰った写真飾る。三月の協会賞授与式には桃子に花束贈呈して貰うことに。一日、祝いのメールや電話などいただく。

28日(月) ▼駒ヶ根市長の杉本君より祝いのメール。毎日新聞鈴木琢磨、城島さんより祝いの電話。東京新聞より七句の依頼。店「閨句会」八人。「汀」の土方元編集長、池田のりをさん。

29日(火) ▼十四時「俳句あるふあ」の中島編集長、スタッフ、カメラマン来店し「一句一菜」の料理の撮影。九品目ほど作る。あと試食タイムとなり私も食み始めてしまう。熱海からの帰路という佐怒

賀直美さんと文芸仲間四人寄って下さる。「江戸城天守を再建する会」の四人。山崎祐子さん祝いに駆けつけて下さる。井蛙さん祝賀会会場探しであちこち廻って来た。坪井さんも。近恵、竹内宗一郎、内村恭子さん……。あと皆川文弘さん、井蛙さんと餃子屋。

30日(水) ▼十四時半、新宿の喫茶店にて杉阪大和さんの第二句集打ち合わせ。閑散。仕込みに徹す。「花暦」の山本潔さん(時事通信社)、坊城俊樹さんがお祝いに来て下さる。二十二時閉めて井蛙、展枝さんと蕎麦の「わたる」。

2月1日(金) ▼店、「澤」同人の野澤雄さん。毎日新聞の城島徹さん(大山かげもとさんの甥)。「大倉句会」あとの十七人。羽久衣さん、母上手製の蕪餅、何ともうまい！

2日(土) ▼終日家。華子以外はスキー旅行へ。夕食、華子と二人。ステーキ。クリームスープ作る。酒飲まず。原稿書く。

3日(日) ▼快晴。十一時過ぎ、高幡不動尊。皆川盤水先生の墓前に俳人協会賞受賞の報告をする。今日は節分で豆撒きの年男に招かれて参道を進む。武田編集長をはじめ、武蔵野探勝句会の仲間三十数名が見守って下さる。不動明王前で杉田御貴主の祈禱を受け二階から杣の豆を撒く。十四時過ぎ、参道脇の蕎麦屋「増田屋」へ。皆が待っていてくれて五句出し句会と宴会。嬉しい一日となる。家族スキーから戻る。

4日(月) ▼彗星集書いて三月号の執筆終了。俳句文学館へ受賞の言葉、自選十五句など。店、三輪初子さん祝いに寄って下さる。初子さんも「毎日俳句大賞」受賞。「つの会」四人。来月は私の句集「然々と」の勉強会と。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十一人。

6日(水) ▼「きさらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと十二人。中島凌雲君、大阪から。屋内松山さん。阪西敦子さん。